たぐち　そうへい
田口　宗平　　政治家・教育者・俳人

1833(天保 4)年～1887(明治 20)年

1. 経歴・狭山市とのかかわり

1833(天保 4)年、宗平は入間郡北入曽村(現・狭山市北入曽)に田口保明の長男として生まれ、幼名を惣兵衛と言い、後に宗平と称する。父の保明は『群書類従』編纂者の国学者・塙保己一の高弟であった。彼は幼少より学問を愛し、漢学を北入曽村の釈亮賢と関口貞斎に、和算を宮野助左衛門に学ぶ。1852(嘉永 5)年、19 歳の若さで北入曽村の名主に就任。しかし、学問に夢があった宗平は名主職を父に預け、江戸へ上る。そして、保己一の四男・忠宝の和学講談所に入門する。しかし、1863(文久２)年、忠宝が勤皇の志士に暗殺され、帰郷する。

彼は父が開いた手習い塾を助け、子弟の教育に尽力するとともに村政にも力を尽くした。1876(明治 9)年、村政が紛糾すると戸長に押され、村民の融和に取り組む。在職 3 年目に退任しようとしたが、村民に慰留され、1882(同 15)年まで 6 年間、戸長を務める。そして 1887(同 20)年 10 月 1 日、54 歳の若さで病没する。1895(同 28)年 8 月 10 日、教え子によって「竹友田口君碑」と刻まれた顕彰碑が建てられる。その表面は正四位勲四等文学博士川田剛が撰文し、正四位勲三等巌谷修(児童文学者巌谷小波の父)が染筆する。そして裏面には「落際の 念なき桐の 一葉哉」と詠んだ竹友の辞世が彫られている。

2. 主な業績

1872(同 5)年の学制発布で公立学校の開設が要請されると、翌 6 年、近郷近在に先駆けて北入曽村外 6 か村が話し合い、宗平の離れに広さ 3 間×5 間の入曽学校(後の入間小学校)を設立し、訓導を務める。しかし、新たな教授法の必要性を感じた宗平は、群馬県前橋町(現・前橋市)の群馬師範学校(現・群馬大学教育学部)に入学し、近代的な教授法を学ぶ。学校に戻ると、子弟の教育に尽くした。彼の教育法は優れ、教え子は学ぶことが多く、教育者沢田泉山を初め多くの有能な人物を輩出した。

3. 特 筆

彼は、地域の俳諧の発展に寄与した。蚊雷庵に弟子入りし愛碧軒と号した後、初代蚊雷庵の死去後に第二世を継承、竹友と号し月影連を主宰する。北入曽村や堀金村(現・堀兼地区)、入間川村(現・入間川)、金子村(現・入間市金子)に弟子を持ち、登喜庵や拙庵、紙葉軒と交友を結ぶ。1862(文久 2)年刊行の『俳諧画像集』で「道あるに わさわさくゝる やなぎ哉」「日は家の 中よりくれて 雪あかり」を発表する。また、著書の『俳諧合鑑』も高く評価された。

〈参考文献〉『続狭山市入間の歴史』『俳諧画像集』

田口宗平の肖像